

地方通信



北海道地方

北海道廳土木工事に能率主義實行?

北海道廳土木部では四月の新豫算年度か

ら能率主義を採用して、土木工事の著業を

規定通りに開始し、工事の一割増加を見指すことに方針の決定を見た。從來の工事期間は六、七月から始めて十二月乃至は翌年一

宮城縣の表彰

一月まで繼續、十月以後の非能率的な期間を省みずに不文律として踏襲して來たが、

新豫算年度から改正を加へ、既に昨年十一

宮城縣では皇紀二千六百年の紀元節をト

東北地方

群馬縣の功勞者表彰

群馬縣に於ては紀元節の佳き日を以て縣下各方面に於ける功勞者を表彰したが、道路に關係ある者は左の如し。

關東地方

月末限りで工事を打切り、今春四月早々著業できるやう各土木現業所を督勵して準備を進めてゐる。他方豫算方面も事業費の人

件費流用を嚴戒、逆に二十餘萬圓の入件費を事業費に繰り入れて努力の適正な活用を圖りつゝある。これが實現の時は努力募集も困難なく工事進行の諸條件が揃ふ譯で、

一石三鳥の名案として期待されてゐる。

茨城縣では二月十一日紀元節をトし各方面に亘りて其の功績者を表彰したが、道路關係者は左の通。

(◎) 優良道路工夫

太田土木出張所道路常工夫 中村常一
岡田吉次郎
土浦出張所同

し各種の功勞者を表彰したが、土木方面での被表彰者は左の通である。

(◎) 優良道路保護組合

△伊見郡大張村道路保護組合
△加美郡小野田村道路保護組合

◎優良修路工夫

▲津久井忠四郎▲本村嘉三▲吉田賢次郎
▲高田頼良▲小金井直次郎▲内堀圭一▲
田中榮次▲城下千俊▲大野徳郎▲尾島政

治▲関義雄▲田部井卯平

◎道路愛護團體

◇一等賞(優勝旗並賞金)

佐波郡三郷村道路愛護會

◇二等賞(賞金)

勢多郡新里村男女青年團

同郡木瀬村道路愛護會

◇三等賞(賞金)

利根郡薄根村道路愛護會▲群馬郡瀬

川村道路愛護會▲藤岡中學校愛護會

◇四等賞(賞金)

勢多郡荒砥村道路愛護會▲佐波郡赤

堀村道路愛護會▲碓氷郡細野村第一

區道路愛護會▲岩平小學校愛護會

◇五等賞(賞金)

碓氷郡細野村二三四道路愛護會▲北

甘樂郡額山村男女青年團▲邑樂郡長

道路愛護會

炳村道路愛護會▲群馬郡中川道路愛

護會▲敷島村青年團▲邑樂郡高島村

道路愛護會▲北甘樂郡新屋村男子青

年團

東山地方

山梨縣寶庫の開發

林道改修の實施

山梨縣の寶庫早川恩賜林を開發する爲め

の早川林道改修工事は昭和十三年來施行中

で、其の半は終工し自動車道路として完成

を告げたるが、殘部未施工に關しては工事

至難の冬季となり、縣會でも論議の中心と

なつた程で、此の地點が駄馬やトラックは

愚か人力による搬出さへ至難とされ、流材

も出來得ず、結局無盡藏な資源を有しながら

立ち廻れといふ惜しみても餘りある現狀

である。結局縣當局では時局下資源不足緩

和實現の上からも恐らく工事促進を圖る事

となるものみられるが、雪解けを俟つて

残餘工事を斷行せば十月乃至十一月までに

は完成するので縣當局では善處の方策を尋

じて居る。

近畿地方

滋賀縣の優良道路愛護團體の表彰

滋賀縣に於ては紀元節の佳日をトし縣下

各種功勞者を表彰したが、左の四道路愛護

團體も表彰の榮に浴した。

◎優良道路愛護團體

蒲生郡朝日野村道路愛護會△東淺井郡

七尾村道路愛護會△高島郡本庄村道路愛護會

京都府舞鶴市民待望の大道路の施工

京都府下舞鶴市民多年の待望であつた都
市計畫はいよいよ昭和十四年度工事として
二等大路第一類第一號線中西町から、下福
井大野邊を通過して下福井中田に至る線が
幅員十八メートル（下福井大野邊地内より

終點まで延長七百十メートルは幅員十五メー

トル）を皮切に、引きつゞき全市街路二

十二線を最小六メートル、最大十八メートル

ルに工事を開始するはずで、こゝに紀元二
千六百年の脚光を浴びて大舞鶴躍進の巨歩

を踏出すことになつた。工事計畫の路線は

次の通り。

仲イナキ△小島幅員十八メートル△魚

屋町一小崎幅員十八メートル△島崎一同

先埋立地幅員十八メートル△京口一町久

合幅員十五メートル△折原一黒田幅員十

五メートル△上安久大通一竹局町幅員十

五メートル△寺内島崎一上安水力幅員十

一メートル△イノベア東一森安幅員十一

メートル△鹽入一松ヶ崎幅員十一メート

ル△下路一松ヶ崎下幅員十一メートル△上

安久大通一州崎幅員十一メートル△伊佐

津カマブル一十倉スエノシタ幅員十一メー

トル△折原一島崎幅員十一メートル△

寺内一島崎埋立地幅員十一メートル△小

分一圓滿寺三丸裏幅員十一メートル△新
松江管區田中文太郎、樋野茂助△廣瀬
管區川井榮三郎△木次管區妹尾金次郎、

中國地方

島根縣の修路工夫表彰

島根縣では二月十一日の紀元節をトし縣

下各方面の功勞者を表彰したが、其の中修
路工夫として表彰せられたるは左の諸氏で

ある。

町一二丸幅員八メートル△折原一亭コキ
川幅員八メートル△カマブル一村谷幅員
八メートル△大所一堀幅員八メートル△
セイ千西一公文名八丁東幅員八メートル△
水力一倉谷カヂヤ前幅員八メートル△コ
千六百年の脚光を浴びて大舞鶴躍進の巨歩
を踏出すことになつた。工事計畫の路線は
次の通り。

河原田幅員メートル△竹屋町一元職人町

幅員八メートル△伊佐津シャイク西一三
丸裏幅員六メートル△黒田一横田幅員六

メートル

谷山嘉太郎△三成管區西村熊藏△今市管

區成相榮吉、陰山久藏△大森管區小谷助

一△川本管區中田常吉、坂板達吉△濱田

管區梶原熊市、嘉戸肇△益田管區藤井菊

市、四坂恒治△津和野管區日能敏正

四 國 地 方

香川縣の表彰

香川縣では二月十一日縣内各種の功勞者を表彰したが、其の中優良道路工夫、優良道路愛護會は左の如し。

◎優路道路工夫

大川郡長尾町石塚友一、小豆郡池田町木元市松、香川郡上笠居村香川太吉、三豊郡柞田村高橋幸助、仲多度郡榎井村堀田

愛助

◎優良道路愛護會

大川郡五名村愛護會、綾歌郡羽床上村愛護會三豊郡麻村愛護會

下峰附近で舊道に合流する約二里の新線で

愛媛縣下道路政策の 計畫立つか

ある。

高知縣高知市の遊覽道路 愈々出現か

過般愛媛縣下を視察したる内務省神戸土

木出張所長原口忠太氏は左の如き視察談を

試みられた。

何さまこの地方は工業都市としての發展が著しいので、土木事業はそれに併行出来ず大變遅れてゐるのを痛感した。工場通勤者その他であれだけ交通量の多いところ

へ二間やつとの國道では交通禍の頻發もあらう。お氣の毒にたへぬが、こんど計画してゐる新道路の開通により多少緩和されるだらう。國領川改修はまだむづかしい、時局といつても窮屈の道はある。これだけの地方ならも少し道路網の完備が必要だ。

地方政府の協力こそ最後の鍵であらう。なほ新設の國道は現在の國道二十四號線と、中

第二線——ヒル間が谷線で、ヒル間が谷か

萩小學校附近から分岐し住友私鐵下を貫き

泉州町役場北方から東田を經、船木村坂の

費は六萬五千圓であるが、眺望は著しく

など第一線第二線共に長短があり、これが決してに苦しめ遂に實現するに至らず今日におよんだところ、高知市では皇紀二千六百年の記念事業費を醸成する傍ら、大量の植林をなし子孫へ永遠の置土産となすべく潮流が高知市へ今併當時持參金として持ち込んだ西孕の深谷山の松、杉、檜の密林を本年度二月開會の市會に提案し、これを民間に拂下げそのあとへ約五萬本の植林をする事となつたが、これがため從來鬱蒼と生え茂つてゐた深谷山は一躍丸坊主となるのでこの機を利し、同森林内へ幅員三メートルの道路を開設し、更にこれを延長して鷲尾山上に至るドライブ・ウェーを完成するに決定した。しかしてこれが總工費は僅かに三千九百圓で、頂上までの距離も三キロに満たず、しかも登山口は西孕線と高見線の交叉點からで便利もよく、この觀光道路が完成の曉は鷲尾山上は四季共非常な賑ひを呈するものと見られてゐる。右につき市では語る。

『鷲尾山のドライヴ・ウェー』は永年の懸案であつたが、總工費は七萬圓を要すので、仲々實現しなかつたところ、今回皇紀二千六百年の記念事業費を醸成のため、深谷山を民間に拂下げそのあとへ植林をする事となつたが、これがため深谷山は一時丸坊主となるのみで好機を逸せず、山上へ遊覽道路を完成する心算である。幅員は先づ三米で途中までは自動車も行けるようになり山上へのドライブも容易とならう。而して明年三月迄には完成の見込である。

九州地方

福岡縣下門司舊海灣を結ぶ
國道ルート成案？

通連絡上に一大エポックを劃するものとして期待されてゐる。

文部省より史蹟名勝天然記念物と指定され塚の上に記念碑を翌十一年二月建設した。

兩地を密接に結ぶ交通機關として登場新興の發展に大きい役割をはたすものと期待される。

宮崎縣下に残る 昔懲しき「里塚」

朝鮮地方

京城府街路樹の保護に切札

宮崎縣下都城の舊領内でも十個以上もあつた一里塚は町木と呼んで、里程標木に交

通の便を得たものであるが、時移りて今は昔を偲ぶのももなきに獨り今時に在る一里塚は完全に其の姿を存してそぞろに昔を偲ばして居る此塚は、今町街道の鹿児島縣境から約九町、都城側に入つた松並木道の兩側にあり、高さ八尺、基底直徑一丈ぐらゐの圓錐形の塚をなし、古老の談によると昔の老木があつたといふが、今は枯れて跡形がない。古文書によると、

「末吉境高見堂より五百三十五間半、梅

北辻より今町この里塚まで四町三十八間

と書いてある。この一里塚の發見者は都城市史編纂係の前田原氏で、昭和十年十二月

朝鮮清津府浦項洞の鐵道踏切は列車の通過ごとに遮断器を下し、清羅幹線道路の最も交通量の多い地點であるだけに著しく交通を阻害してゐるが、この救濟策として跨線橋の新設が十四年度清津府で計畫され認可申請中のところやうやくこのほど認可の通知あり一年遅れて來る四月から着工し

うる段取となつた。

此跨線橋は取付道路を合せて全長五百八十米、工費二十七萬圓、府と鐵道局共同で施工するが、下津土木課長は着工が遅れたので最初の三年計畫を二年に短縮十六年度中に完成することとなつた。かくて難所とされた踏切も近代的明粧を施し新舊清津の

街路の兩側を飾る並木が枯死したり、あして來たので、京城府では躍起となつてこれが防止に努めて來たが、一向に改まる模様がないのでいよいよ最後の切札として木補償の府令を出し、警察の協力を願つて積極的に並木保護に當ることになつた。

同補償令は並木を故意に枯死せしめたもの、傷けたものはもちろん府の許可を得て移植伐採、枝葉の剪定をするものに對しても適用される、補償金額は樹の大きさによつて決定されるが、大體十五圓から四十圓まで、また剪定は四十錢から二圓までとなつてゐる、實施期は四月一日からになる模様。

なほ昨年中の並木の損傷は枯死二千二百三十七本、半枯死六百十本頗るによる剪定三百本で、枯死の半數は子供のいたづらや故意に折取つたものなどである。